

1 単元名 作家と作品をかかわらせて読もう 「宮沢賢治」

2 単元の目標

作家と作品のかかわりに興味をもち、作品を読んだり紹介したりしようとする。

（関心・意欲・態度）
 読んだ作品の感想や、作家と作品のかかわりなどについてポスターなどで表したものを発表し
 合い、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。（書くこと）
 「雨ニモマケズ」に述べられている宮沢賢治の理想や生き方について教材文をもとに根拠を明
 らかにして読むことができる。（読むこと）
 新出漢字を読んだり書いたりするとともに、指示語や接続語の用法や、文章に出てくる語句に
 ついて正確に理解することができる。（言葉の特徴やきまりに関する事項）

3 指導にあたって

(1) 教材観

この作品は、「まことの幸せ」を求め続けて農民のために献身的な生き方をし、自らもまた農
 民として生きながら詩や童話を書き、独自の文学を創りあげた宮沢賢治の生涯を描いたものであ
 る。伝記は主人公の出生から始まるものが多いが、この作品は宮沢賢治の人物像から描かれてお
 り、単に賢治の生涯を追うのではなく、賢治の生き方や考え方を中心にしてまとめられている。
 文章も比較的平易で、賢治の行動を追いつながりながら賢治の生き方や考え方を学び取るこ
 ののできる教材である。しかし、賢治の理想とする世界や広大で深遠な世界観を理解するのは容易ではない。
 だが、それらのことは文章全体に表現を変えながら書かれており、賢治の行動をていねいに読み
 進めることによって理解を深めていくことができると考えられる。

(2) 児童の実態（男子*人 女子*人 計*人）

宮沢賢治の物語を読んだ経験について （「注文の多い料理店」を除く）	ある *人（セロギのゴージュ）	ない *人
「勘定」という言葉の意味について	理解している *人	していない *人
「でくのぼう」という言葉の意味について	理解している *人	していない *人
根拠となる文をとらえることができるか （「ヒロシマのうた」の学習より）	できる *人	時間がかければ できない *人 できる *人

児童に宮沢賢治の物語を読んだ経験について質問したところ、全員が5年生で学習した「注文
 の多い料理店」を読んだ以外、ほとんど読んだことがないということが分かった。「銀河鉄道の
 夜」や「風の又三郎」などの題名を出してみると、聞いたことがあるが読んだことはないという
 状況であった。また、根拠となる文を教材文から探す活動を行ったとき、すぐに目的の文にたど
 り着けた児童はあまりいなかったが、多くの児童は時間をかけてじっくり取り組めばたどり着く
 ことができた。しかし、数名根拠となる文を見つけることができなかった児童も見られた。

(3) 研究主題に迫るために

児童に確かな読みの力を身に付けさせるためには、叙述に即して文章の表している出来事を正
 確に読み取ること、もとなる根拠をはっきりさせながら登場人物の心情などを考えさせること
 がより重要であると考えた。本単元の指導にあたっては、「雨ニモマケズ」という賢治の理想と
 した人物や生活が述べられた詩をもとに、賢治自身の生活や信念、理想についての根拠について
 教材文の中から読み取らせるようにしたい。また、児童が日常生活を営む中ではあまり耳にしな
 い言葉も多く出てくるため、それらの意味についても把握させ、賢治という人物像のより正確な
 把握に努めていきたい。その際、指示語等の言葉にもこだわり丁寧に読み進めたり、小グループ
 による話し合い活動を取り入れたりすることで、確かな読みにつなげていきたい。さらに、賢治
 の書いた他の作品を読ませ、賢治の世界観を感じさせていきたい。

4 指導計画（11時間取り扱い）

次時	主な学習活動	評価の観点
一	1 「雨ニモマケズ」を読んで、宮沢賢治の人物像について想像する。	・宮沢賢治に興味をもち、作品とのかかわりについて関心をもって読もうとしている。（関心・意欲・態度）
	2 「雨ニモマケズ」の中の難語句について、意味や使い方を調べる。	・国語辞典を用い、叙述に即した語句の意味をとらえることができる。（言葉の特徴やきまりに関する事項）
二	3 「雨ニモマケズ」に書かれていることの根拠を教材文から読み取る。	・教材文に書かれている内容から、賢治が理想とした人物像を思い描いた根拠を読み取ることができる。（読む）
	4 「雨ニモマケズ」の前半部分に書かれていることの根拠について話し合う。【本時】	・グループでの話し合い活動を通して、読みを深めることができる。（読む）
	5 「雨ニモマケズ」の後半部分に書かれていることの根拠について話し合う。	・自分の感想や考えをノートにまとめることができる。（読む）
	6 宮沢賢治の人物像について考える。	・読んだ作品の感想や、作家と作品のかかわりなどをまとめ、ポスターに書くことができる。（書く）
三	7 賢治の他の作品の中から読みたい作品を選んで読む。	・ポスターセッションを通して、感想を伝え合うことができる。（読む）
	8 作品を紹介するポスター作りをする。	
	9 ポスター作り及び、発表の練習を行う。	
10	11 ポスターセッションを開く。	

5 本時の学習

- (1) 本時の学習目標「雨二モマケズ」に述べられている賢治が理想とした生き方や願いについて、教材文をもとに読み取ることが出来る。
- (2) 準備文(黒板掲示用)・「雨二モマケズ」を拡大したもの(黒板掲示用・グループ活動用)
- (3) 短冊(黒板掲示用)・ワークシート・振り返りカード

時間	学習活動及び内容	指導の手立て及び留意点 評価 テーマとのかかわり
0	1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">「雨二モマケズ」を読んで、賢治の理想とした生き方や願いについて考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「雨二モマケズ」を黒板に提示し、それが宮沢賢治が書いた詩であることを確認する。 ・「雨二モマケズ」の原文は片仮名であるが、児童が内容をよりスムーズに理解することができるよう、平仮名で表記したものを用意する。
3	2 「雨二モマケズ」を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でそれぞれ読ませる。 ・全員で声を合わせて読ませる。
8	3 「雨二モマケズ」の前半部分での賢治が理想とした生き方や願いの根拠について、教材文から読み取ったことを話し合う。 (1) グループで意見を出し合う。 丈夫なからだをもち ・ついに胸の病気になってしまった。 ・二年ばかり療養した。 ・また病にたおれてしまった。 欲はなく ・この生活からは、人間のみにくい欲望はいっさいわいてこない。 あらゆることをじぶんをかんじようにいれずに ・あちこちの村に無料の肥料相談所を作り よくみききしわかり ・訪ねてくる農民があれば、その話を熱心に聞いたりした。	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文全体から根拠を探させる。 ・前時に、それぞれ個人で根拠を探し、ノートに張った詩に付せん紙を張らせておく。 ・一つの文に対して、根拠となる文が複数存在することもあり得るということを知らせる。 ・各グループに詩を拡大したものを用意し、前時、自分のノートに張った付せん紙を張らせることにより意見を出させていく。 ・なかなか活動に取り組むことができないグループには、考えやすい部分から取り組むよう助言する。「欲」や「あらゆること」とはどういうことなのかについても考えさせるようにする。 単なる想像や推量で進めてしまわないよう、根拠となる文を必ずはっきりとさせる。 根拠となる文を選んだ理由についても話し合わせる。 ・早く終わったグループには、後半部分についての話合いに進むよう助言する。 ・見つけた根拠となる文を黒板掲示用の短冊に書かせ、黒板に張った詩を拡大したものに書いた短冊を張らせる。 ・短冊が張られた黒板を見て感じたことを自由に発言させる。 児童のつばやきをとらえ、その理由について考えるよう発言した児童や全体に投げかける。 ・なかなか発言ができない場合には、黒板に張られた意見と異なる意見をもっているグループを意図的に指名し、話合いの糸口を見い出せるようにする。 ・さまざまな意見を知り、話し合っていくことにより、賢治の理想とする生き方や願いについてより深く理解させる。 賢治が理想とした生き方や願いについて、「雨二モマケズ」の詩をもとに読み取ることができたか。(観察、ノート) ・読み取ることができなかった子に対しては、友達の考え方をもとに教材文に戻り、確認をするよう支援する。
20	(2) グループで話し合ったことをもとに、全体で検討する。	
30	4 最初に自分がもっていた賢治の人物像と、学習後に自分が思う賢治の人物像について比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入時に書かせた、児童が考えた賢治の人物像から変化したことはないか考えさせ、どのように変化したのがワークシートに書かせる。
40	5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業についての感想などについて、振り返りカードに記述させる。
44 45	6 次時の学習について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、「雨二モマケズ」の後半部分について話し合うことを知らせる。

